

## 電子投稿制度に伴う編集規約 及び投稿規定の改定について

編集委員会  
(山梨学院大学 河西秀夫)

1

## 電子投稿制度

- 電子投稿制度の導入の可否と適用範囲の検討---導入
- 但し、J-Stageを使用するか電子メールで行なうかは現在の時点で決めていない。・・・別組織で検討
- 電子投稿制度に伴う編集規約及び投稿規定の改定について
- J-STAGEの推奨基準とSIST(科学技術情報流通技術基準ハンドブック2003)の基準との整合性の検討—基本的には従う

2

## 他学会の動向

- 土木学会と地質学会など多くのが電子投稿になっている
- 土木学会の投稿規程と投稿過程
  - 1.投稿原稿はPDF化したものであり、ファイルの上限は3MBである。原稿は2段組で、図表はすべてレイアウト済みにする。
  - 2.投稿原稿をアップロードすると、原稿受付メールが自動的に送信される
  - 3.査読終了の通知はメールで送信される。
  - 4.修正原稿或いは完成原稿を再度アップロードする。
- 地質学会投稿規程と投稿過程
  - 1.投稿原稿はPDF化したもの。PDF原稿の様式は特に規定はなく、従来の様式を踏襲
  - 2.以下土木学会と同じ。

3

## 他学会の動向

- 情報処理学会と電子情報通信学会でも電子投稿制を採用
- 情報処理学会: LaTeXかMS-WORDのどちらかを使用した原稿。MS-WORDの原稿はPDF化ファイル化して送信。
- 電子情報学会: LaTeX2eの使用を推奨。MS-WORDも可能。いずれの場合もPDF化

4

## 編集規約・投稿規程改正の議論点

これまで行なわれた議論点

- 電子投稿制度の適用範囲
- 投稿原稿のファイル形式について
- 引用文献の書式について
- 著者名のローマ字表記について
- 投稿原稿の流出と盗作に対する処置

5

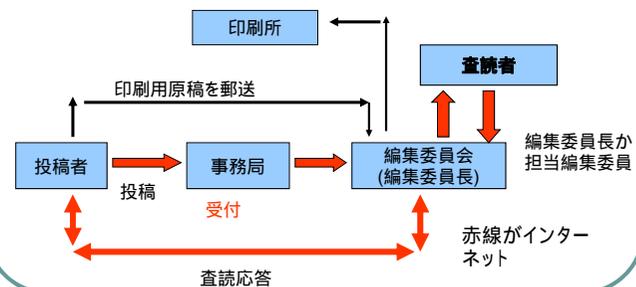
## 当学会の電子投稿制度の範囲

- 電子投稿制度の範囲
  - 1.原稿の投稿から**査読まで**  
インターネットで原稿を添付 - 電子媒体  
査読結果の返送もインターネットを使用
  - 2.印刷原稿は従来どおりの郵送方式  
印刷用原稿を編集委員会に送付  
印刷用原稿を編集委員会から印刷所に郵送

6

## 当学会の電子投稿制度の流れ

- インターネットを使用した投稿方式



7

## 投稿原稿のファイル形式について

- 投稿原稿のファイル形式に関する議論
  - A.J-STAGEではPDFファイル化を推奨  
これに従うか
  - B.図表の取り扱い  
提出原稿に図表を張り込むか

8

## 投稿原稿のファイル形式について

- 投稿原稿のファイル形式(印刷用原稿は別)

### A.J-STAGEではPDFファイル化を推奨

#### 1.PDFファイル化するかどうかの議論

- 利点: PDFファイルはサイズが小さく、図表も張り込むことができる。
- 欠点: PDFファイルに査読結果を直接書き込むことができない。

#### 2.ワードプロセッサのファイルにする。

- 査読意見がファイルに直接書き込むことができる。
- J-STAGEでもワードプロセッサのファイルが使用できる。

### B.提出原稿に図表を張り込むか

- 利点: 投稿者の立場では、図表の位置の指定が楽。
- 欠点: 査読者の立場では、図表が小さくなり、読み難い。

9

## 投稿原稿のファイル形式について

- **ワードプロセッサ**で作成したベタ打ち原稿のファイルをdoc形式あるいは、rtf形式で提出する。
- この原稿には図、表も関連する位置に貼り付ける。
- サイズが大きな図表は原稿の末尾にページを設けて貼り付けることもできる。
- 1つのファイルサイズは3MB以下とする。
- ファイルサイズが3MBを超える場合は原稿ファイルと図表ファイルにわけ、図表ファイルはpdf化などにより30MB以下にする。

10

## 最終提出原稿の書式

- 印刷所の技術により左右される。
  - 基本的な事項のみを定める
  - 詳細は別途定める。--学会ホームページなど
  - 基本的な事項
    - a. 著者が使用したワードプロセッサの文章(含む数式、図表は別ファイル)のベタ打ち形式のファイル。
    - b. 図はbmp, gif, jpegの形式のいずれかで保存したファイル。
    - c. 表は表計算ソフトの形式で提出。
    - d. A4の刷り上り用レイアウト見本。

11

## 電子投稿制度 - 引用文献の書式の問題

- 論文の書式は基本的にSISTに従う。
  - 引用文献の書式の問題・・・SISTの基準の問題
  - 和文雑誌の英語表記
  - 電子雑誌、ホームページからの引用の問題

12

## 電子投稿制度 - 引用文献書式の問題

- 引用文献の書式は基本的にSISに従う。

### 議論点1

- 引用文献の書式・・・SISの基準の問題

出版年の表記を、SISの基準に従うか、従来の方法で行なうか。・・・従来の方法は査読時に便利

例 河西(2002)と本文中にあった場合、従来の方法では引用リストの中から探しやすい。

- ▶ SISの推奨

著者名.論文名.誌名, 巻数, 号数, 出版年, 初めのページ - 終わりのページ

- ▶ 従来の方法

著者名.出版年.論文名, 誌名, 巻数, 号数, 初めのページ - 終わりのページ

13

## 電子投稿制度 - 引用文献書式の問題

- 議論点2

- ▶ 「欧文論文において和文誌名を参照する場合には、誌名は原則としてローマ字書きとし、欧文誌名を持つものは、必要があれば丸括弧に入れてローマ字誌名の後に付記する。正式な欧文誌名のないものは、欧訳誌名を付けてはならない」(SIST02)

例 GEOINFORMATICSを  
JYOHOCHISHITU(GEOINFORMATICS)と表記

- ▶ 従わない

引用雑誌の英文表記を使用する。

14

## 電子投稿制度 - 書式の問題

### 電子雑誌、ホームページからの引用の問題

- ▶ 可能とする。但し、電子媒体(電子ジャーナル)と出版物(冊子体)の両方で公開されている場合は出版物のほうを引用とする

- ▶ 引用文献の表記方法を設定

#### 電子雑誌の場合

著者名. 出版年, 論文名. 誌名. 出版年, 巻数, 号数, 初めのページ - 終わりのページ, (媒体表示), 入手先, (入手日付). 出版年が不明の場合は「--」と明記する。

#### ホームページの場合

著者名. 出版年, “Webページの題名”. Webサイトの名称. (媒体表示), 入手先, (参照日付). 出版年が不明の場合は「--」と明記する。

15

## 著者名のローマ字表記について

- SISの推奨案に従う

- ▶ 著者名のローマ字表記は、姓を大文字で表示、名前の頭文字を大文字で表示する。姓と名前の間にコンマ(,)を入れる。著者が複数の場合は著者をセミコロン(;)で区切る。

例: KASAI, Hideo\*; KOIKE, Katsuaki\*\* and TAKAMI, Masazou\*\*\*

- ▶ 姓を変更した場合、必要に応じて、姓(旧姓)名前のように、旧姓を括弧の中に表示する。

16

## 電子投稿制度の問題点

- 投稿原稿の流出と盗作
  - 電子媒体なのでコピーしやすい。
  - 第三者がコピーして他学会に投稿することを防ぐ。
- 対策が必要
  - 編集委員会の義務の明文化  
受付日の記録、却下した原稿の処置
  - 査読者の義務の明文化

17

## 電子投稿制度の問題点

- 編集委員会の義務の明文化
  - 受け付けた日付を記録し保管しておく
  - 編集委員会は送られてきた原稿を保管し、他へ流出がないように保管に十分注意する。
  - 却下した文書と原稿は著者の承諾を得て5年間編集委員会で保存
- 査読者の義務の明文化
  - 査読者は、査読後すみやかに当該ファイルを削除しなければならない。

18